

# 御由緒

当社は京都最古の神社で、太古この地方一帯に住んでいた住民が、松尾山の神霊を祀って、生活守護神としたのが起源といわれます。五世紀の頃朝鮮から渡来した秦氏がこの地に移住し、山城・丹波の両国を開拓し、河川を治めて、農産林業を興しました。同時に松尾の神を氏族の総氏神と仰ぎ、文武天皇の大宝元年（七〇一）には山麓の現在地に社殿を造営されました。都を奈良から長岡京、平安京に遷されたのも秦氏の富と力によるものとされています。従って平安時代当社に対する皇室のご崇敬は極めて厚く、行幸数十度に及び、**正一位の神階**を受けられ、名神大社、二十二社に列せられ、賀茂両社と並んで**皇城鎮護の社**とされました。室町末期まで、全国十数ヶ所の荘園、江戸時代にも朱印地一、二〇〇石、嵐山一带の山林を有していました。



一ノ井川の山吹  
(四~五月初頃境内一円に美しく咲き乱れます。)

▼神輿庫の酒樽  
(全国の酒造家より奉獻された樽の数々)

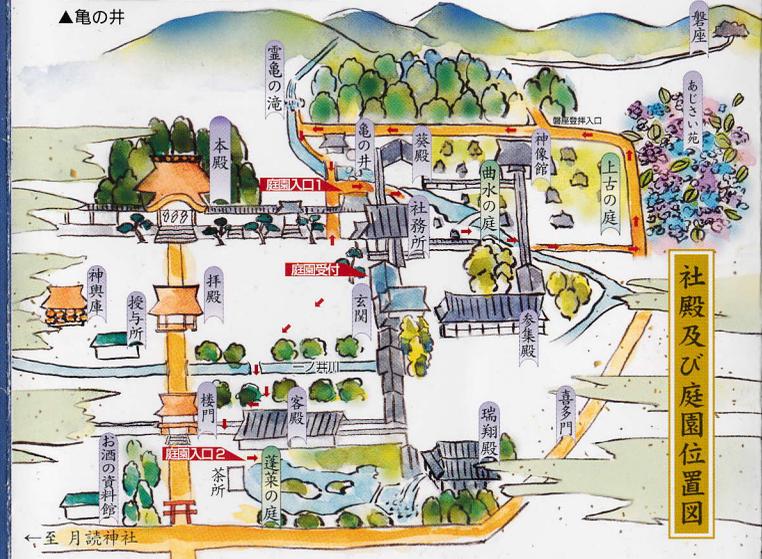


# 境内

社殿の背後の松尾山を含む約十二万坪が境内です。**松尾山**は別雷山とも称し、七谷に分かれています。社務所の裏の溪流を御手洗川と称し、四時洒れることのない**霊亀の滝**がかかっています。滝の近くに**亀の井**という霊泉があり、酒造家はこの水を酒の元水として造り水に混和して用い、また**延命長寿、よみがえりの水**としても有名です。この溪谷の北にある谷が大杉谷といわれ、その頂上近くに巨大な岩石があります。これが古代の**磐座**で、社殿祭祀以前に当社の神を祀っていた所です。



▲亀の井



# 社殿及び庭園位置図

# 主なる祭儀

- 一月 一日 歳旦祭
- 三日 元始祭
- 十五日 古神札
- 二月 節分日 焼納祭
- 四月 十七日 節分祭
- 四月 十七日 新年祭
- 四月 十七日 中酉祭
- 四月 十七日 例祭
- 四月 十七日 中酉祭
- 四月 十七日 感通祭
- 二十日以後 神幸祭
- 二十九日 第一日曜日 護持講
- 二十九日 講社祭
- 五月 神幸祭以後 還幸祭
- 五月 二十一日の日
- 六月 三十日 大祓式
- 七月 第三日曜日 御田祭
- 七月 第三日曜日 八朔祭
- 九月 第一日曜日 上卯祭
- 十一月 上卯日 (醸造安全祈願祭)
- 十二月 二十三日 新嘗祭
- 十二月 二十三日 大祓式
- 十二月 三十一日 除夜祭

# 洛西総氏神・醸造祖神 松尾大社社務所

〒616-0024 京都市西京区嵐山宮町3  
TEL 075 (871) 5016 (代)・FAX 075 (871) 3434  
<http://www.matsunoo.or.jp/>



※JR京都駅から 市バス②⑧・京都市バス⑦③「松尾大社前」下車／阪急嵐山線で「松尾大社」下車

# 洛西総氏神 醸造祖神 松尾さん





▲本殿

### 御祭神

大山咋神  
市杵島姫命

大山咋神は、古事記に「大山咋神またの名は山末大主神、此神は近淡海国の日枝山に坐し、また葛野の松尾に坐す鳴鏑を用ふる神なり」とあり、山の上部（末）に鎮座されて、山及び山麓一帯を支配される（大主）神であり、近江国の比叡山と松尾山を支配される神であったと伝えられます。

市杵島姫命は、古事記に「天照大神が須佐之男命と天安河を隔てて誓約された時、狭霧の中に生まれ給うた。」と伝えられる神で、福岡県の宗像大社に祀られる三女神の一神として、古くから海上守護の霊徳を仰がれた神です。



▲女神像



▲男神像

### 社殿

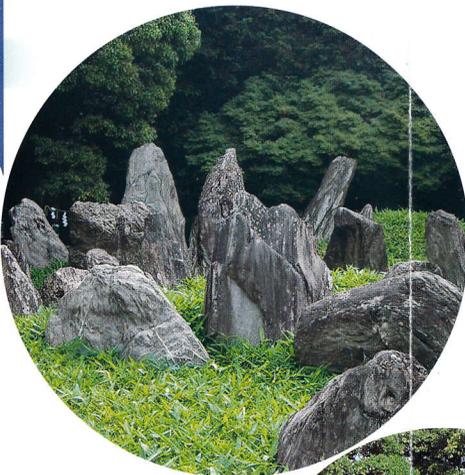
本殿は、大宝元年秦忌寸都理が勅命を奉じて創建以来、皇室や幕府の手で改築され、現在のものは室町初期の応永四年（一三九七）の建造、天文十一年（一五四二）の大修理を施したものです。建坪三十五坪余、桁行三間・梁間四間の特殊な両流造りで、松尾造りと称せられています。箱棟の棟端が唐破風形になっているのは他に類例がなく、柱や長押などの直線と屋根の曲線との調和、木部・椼皮の色と柱間の壁の白色とが交錯して醸し出す色彩の美しさ、向拝の斗組・臺股・手挟などの優れた彫刻意匠は、中世の特色を遺憾なく発揮しており、重要文化財に指定されています。また本殿につづく釣殿・中門・回廊は、神庫・拝殿・楼門と共に江戸初期の建築と云われています。

### 御神徳

京都市西の総氏神として、約十万户の氏子の崇敬を集めるほか、古来、開拓、治水、土木、建築、商業、文化、寿命、交通、安産の守護神として仰がれ、特に醸造の祖神として、全国の酒造家、味噌、醤油、酢等の製造及び販売業者から格別な尊崇を受けています。

### 神像館

当社所蔵の御神像二十一体が常時拝観出来ます。特に重要文化財に指定されている老年・壮年男神像、女神像は平安時代初期の作で、等身大一木造りの座像で、我が国神像彫刻中最古最優秀品として有名です。また撰末社に旧蔵されていた十八体も、御神像の変遷を知るうえで歴史的にも非常に貴重なものです。



### 松風苑

松風苑の三つの庭は、昭和の庭園学の第一人者重森三玲氏が心血を注いで造られたもので、明治以後における現代最高の芸術的作品として知られます。三庭に用いた二百余個の石はすべて徳島県吉野川の青石（緑泥片岩）です。

昭和四十九年四月着工、五十年五月完成。

上：上古の庭（磐座風）松尾山中の神蹟に因んで作られたもので、二神を表徴する二巨石を囲む岩石群の配置は森厳味溢れ、地上一面に植えられた丹波笹は高山の趣をあらわしています。

中：蓬莱の庭（鎌倉風）昔、中国の人が、東海中に不老不死の島ありと考えたのが、蓬莱の島です。岩の間から噴出する水が鶴形の池に注ぐところ、多くの島が点在し、周囲を回遊しながら眺めると、仙境に遊ぶ感じがするといわれます。

下：曲水の庭（平安風）当神社の最も栄えた平安期を表現するもので、御手洗川の清水は七曲りして丘麓を洗い、丘上には青石が点在してこれを見下ろす優雅にして華麗な姿です。

